

## 分析して連想する くらべて読む聖書

聖書は、何千年にもわたって読み継がれ、今日でも多くの人々のたましいの糧となっている。とはいえ、そこに書かれていることは必ずしも現代人になじみぶかいものではなく、またそこにつづられている内容はいつも教訓的なものとは限らない。最初から最後まで読み通してみようとしても途中で挫折する。話しに結論がなく、こま切れに見えることはしばしばである。

なぜ、読みにくいのだろうか。学者や専門家のために書かれたのではなく、信じるすべての者のために書かれたのではないのか。モーセは、「わたしが、きょう、あなたに命じるこの戒めは、むずかしいものではなく、また遠いものでもない。-この言葉はあなたに、はなはだ近くあってあなたの口にあり、またあなたの心にあるから、あなたはこれを行うことができる。」(申命記30:11,14)と教え、詩篇著者は、「あなたのみ言葉はいかにわがあごに甘いことでしょう。蜜にまさってわが口に甘いのです。」(詩篇119:103)と語る。

聖書の読み方の前に、まず、聖書の書き方に注目しなければならない。聖書の表現方法や編集技法を知ることによって、聖書自体が語らんとするところを汲み出すことができる。ひとことで言うなら、「くらべて読むように書かれている」ことが聖書の書き方の特徴である。それゆえ、聖書を「くらべて読む」読み方はふさわしい。

くらべることには、ふたつある。ひとつは、くらべて分けること(分析)。対象の書物や箇所に出てくる同じことば、言い方を洗い出す。それらの語句の関係を確かめながら、正しく段落に分けて、題を付ける。もうひとつは、くらべてつなげること(連想)。他の書物や箇所とくらべて、話しの種がどう実を結ぶのか、どう生かされていくのかを探っていく。

くらべて読むことは、むずかしいものではなく、少し訓練すれば小さな子どもでも身に付けられる。聖書を聖書で読むことに慣れてくれば、聖書を自分の人生に、そして現代に正しく適用する知恵が与えられる。みことばに生きようではないか。

### 1. 分析して連想する

分析は、聖書箇所を、ただしく区別して、良い名を付けて喜ぶこと。連想は、みことばの種が、どのように実を結び栄光化されていくのか、その調和を楽しむことである。分析して連想する読み方は、新しいアダムとエバにふさわしい創造的な読み方である。

### 2. やってみよう(詩篇一篇)

まず記入用聖書を準備し、色鉛筆を手にして丹念に同じ言葉に色を塗り、同義語、反意語、定型文を手がかりに、段落を区分し、段落の間のつながりを連想し、全体像を把握していく。時間のかかる作業ではあるが、聖書を聖書で読んでいる実感と、さまざまな発見に導かれて、蜜と乳の流れる聖書の旅となる。

### 3. みことばを学ぶ喜び

カンノ家族と仲間たちによる聖書の分析と連想の記録。カンノ夫妻は、6人の子供を聖書教育ホームスクールで育ててきた。1994年、詩篇一週一篇の学びからはじめて、「くらべて読む」方法に導かれ、2006年からは、同じ手法で福音書にとりかかり、使徒行伝、新約聖書の手紙すべてと黙示録、創世記、そして、2010年には、再度、詩篇にもどって格闘。現在も日々くらべて読む毎日を送っている。

おわりに：